

主要幹線の国道2号と国道4号が走り、交通の要所たつた二俣瀬地区。江戸時代、山中には山陽道の宿場が置かれ、参勤交代の大名や街道を行き交う旅人であふれていた。ふれあいセンターを発着点に、二俣瀬まちづくりサークルの原田満洲夫さんの案内で、地区的歴史を感じられる約3・7キロのコースを1時間ほどかけて散策した。

創刊110周年記念

誇れるふるさと 24地区リレー (vol.6)

<二俣瀬④ 散策マップ>



宿場町の面影たどりながら 旅人気分で自然や遺構巡る



次回は恩田地区。30日スタート。

宿場町の面影が感じられる自然豊かなまち並み。すがすがしい汗を流すことができた。

ふれあいセンター(①)を出発してすぐに歴史的建造物の永山本家酒造場(②)が待ち構える。目の前には厚東川に架かる木田橋。1955年ごろに国道2号の道筋が変更されるまでの80年間、川を渡る橋として交通の要だつた。左手には桜の名

所として人気が高い桜づみ公園(③)(写真)が広がる。約500本が植えられており、春にはライトアップされる。国道2号を渡り、厚東川ダム方面に歩くと、左手に木田橋(④)が待ち構える。木田橋は、長さ44・2m、幅2mにもなる。洪水時の被害を避けるため厚東川の旧堤防に沿って築かれた。現在は看板だけが残っている。川沿いに少しじつ進むと、ゆがんだ階段が特徴の日吉神社(⑤)や流泉寺跡(⑥)。下ると、村境に置かれていたとされる庚申塚(⑧)が祭られている。同川にかかる二俣瀬橋を通過し、車地交差点を渡つて二俣瀬小(⑨)に向かう。

宿場町の面影たどりながら

その先を右折し、田んぼの間を抜けると文化財保護のために埋め戻された木田郷遺跡(⑦)がある。大規模な石組みの遺構の建築年代は明治前半(1868年)から昭和初期(1926年)まで、長さ44・2m、幅2mにもなる。洪水時の被害を避けるため厚東川の旧堤防に沿って築かれた。現在は看板だけが残っている。川沿いに少し進むと、ゆがんだ階段が特徴の日吉神社(⑤)や流泉寺跡(⑥)。下ると、村境に置かれていたとされる庚申塚(⑧)が祭られている。同川にかかる二俣瀬橋を通過し、車地交差点を渡つて二俣瀬小(⑨)に向かう。